

B-2 指導上の工夫

学習指導と評価の工夫改善について

① **子どもの実態に合わせた学習展開**

昨年度の5年生も2学期終わりに「インタビュー名人になろう」の学習をおこなった。児童数が20名ということもあり、4人グループでインタビューしたい先生を決め、質問内容を班ごとに考えさせた。質問は4つ以上考え、分担して聞くことにした。インタビューの本番は先生方に教室に来ていただき、順番にインタビューを受けていただいた。評価カードを利用して自己評価と相互評価をさせた。

今年度はまだ1学期後半で、クラスの人数も多く、一人ひとりに意識を持たせるためにも、友達と一对一の形態をとり計画を立てさせることにした。また、インタビューの活動が楽しいものになるように、質問される方も答えやすいような話題にしたいと考えた。ほとんどの子ども達は保育所のころから同じクラスで生活してきた仲間である。しかし、休み時間などの様子を見ていると一緒に遊ぶ友達はある程度固定しており、付き合いは長くても意外と知らないこともあるようだ。そこで、目的を「クラスの人のことをよく知るため」とし、事前調査では「今、夢中になっていること・楽しいこと」を書き出させた。その事前調査の結果をもとに、質問することを考え、答えの予想を立てさせた。インタビューする相手は、なるべく男女混合になるように班のメンバーで相談することにした。

② **目的意識と相手意識を明確に練習**

インタビューの実践にあたって、目的（なんのために）、相手（だれに）、質問内容（どんなことを）、時（いつ）をはっきりさせておく必要があることを指導した。今回は特に必要がなかったが、相手の都合を聞いて日時・場所を決めることも必要な場合がある。場合によっては事前にインタビューの依頼を相手に交渉しなくてはならないことも併せて知らせた。また、あいさつや適切な言葉遣いなどのマナーも確認した。

実際のインタビュー時間はどの子も短かったので、2人組の練習は予定より数多く行わせた。練習を重ねていくと、計画の段階では気づかなかったことがいくつか出てくる。自分の質問が目的に沿っているかどうかだけでなく、インタビューを受ける立場を体験することで、「この聞き方は答えにくいな。」「感想はこんなふうに言えばいいのか。」など自分の計画を見直すことにもつながった。

③ **ワークシートの工夫**

インタビューの計画を立てるためのワークシートには、「実際の聞き方」を書く欄を設けた。また予想した答えを書けるようにもした。さらに練習で気がついたことは、ワークシートに書き込み、よりよくなっていく過程を子ども自身が自覚できるようにした。

④ 教師の適切な支援

計画を立てる時間やインタビュー練習では、子ども達がどのような点でつまずきどのように解決しようとしているかを机間指導しながら把握することに努めた。実際の活動では、単に「質問→回答」の繰り返しになっている子には、さらに話が広がっていくような質問を考えるように助言したり、事前調査のメモを活用して新たな質問を考えるようにしたりした。相手の答え方によっては「例えば、どんなものですか。」と詳しく聞こうとすると話が広がっていくとアドバイスした。また、質問される側が話しやすくするために、インタビュー中にはうなずきながら話を聞く、「へえ」「なるほど」「そうなんですか。」などと相づちを入れる、相手の話したことを繰り返すなどの手法が有効であることも教えた。

⑤ 子どもの自己評価・相互評価

1回目の練習の後には自分で気づいたことを書き、相手にも助言してもらうようにした。それらの反省点を生かしてインタビューの原稿を修正する時間を設けた。評価の観点は「声の大きさ」「質問内容」「相手の話を受けながら話す」「適切な言葉遣い」などとし、相手や場に応じた話し方ができているかどうか考えさせた。2回目の練習では評価カードを利用して、自己評価と相互評価をさせるようにした。また、インタビュー練習の様子をビデオに録画し、よいところを紹介した。お互いのよさを認め合う機会として、さらに次の意欲へつながるようにした。